



## 新年のごあいさつ

公民館長 山本 照夫

明けましておめでとうございます。年末から正月にかけて大雪が降らず、皆さまもおおむね穏やかにお過ごしになったのではないかと思います。同じようにこれから先、社会も私たちの暮らしも穏やかで安心できるものであればと思います。しかし、一昨年の東北大震災や東京電力の福島原発事故からの復興、雇用・経済の再生、財政再建など多くの困難な課題があります。これから国の政治、ひいてはわたしたちの生活にも大きな変化が予想されるところです。こうした年々、日々変化していく世の中に対応して、自分た

ちの生活を守り、地域・まちの暮らしを維持・発展させていくためには、わたしたちも健康を保ち、身も心も元気に、いつまでも学ぶ心を持ち、何事にも前向きであることが大事ではないでしょうか。それでこそよき明日、生活があると思います。

さて、旧年中、公民館運営につきましても、町公民館運営審議会委員の皆さま、公民館学習グループ、公民館利用者の皆さまのご理解とご協力、ご指導をいただき、ありがとうございます。おかげさまで順調に各種公民館事業を展開することができました。

また、昨年は、公民館の調度品、テント、放送機器、ニュースポーツの器具などの更新や購入をしました。和室にも立ち机と椅子を入れましたので、足や膝が痛い方には、便利だと思えます。地域での各種行事などへの貸し出し用のテント、机・椅子・ワイヤレスマイクはもちろん、ニュースポーツ用具も各種そろえましたので、ぜひご利用ください。

今年も毎月のおしどり学園、

各種体験教室、自然に親しむ活動、地域の食文化や伝統行事講習、出前公民館、文化芸術作品の発表・鑑賞の機会づくりなど、皆さまの生涯学習・生きがいづくりにかかわる活動を年間計画に合わせ、時機にかなった企画を実施します。ご希望がありましたらぜひお知らせください。

近年、公民館まで出かけにくい方々のため、町内各地区に出かける出前公民館を開かせていただいておりますが、この地区においても過疎と高齢化が進み、小さな集落内でもお互いの交流が少なくなりつつあるようです。出前公民館は、特に高齢で外出しにくい皆さまに、人中出现いただき、お互いの交流とふれあい、趣味や生きがいづくり、心身活性化の機会となりますよう願っています。

今年も私たち公民館職員一休となつて、公民館の役割・機能を果たせるよう頑張りたいと思えます。

最後に、皆さまにとって今年がより良い年になりますよう祈念して年頭のごあいさつとさせていただきます。

## 神棚や車に飾りたい。さまざまな大きさのしめ縄に挑戦



講師の石田さんから教わる参加者

### ▼しめ縄づくり教室

正月前の12月23日、公民館でしめ縄づくりの教室を開き、今年も、21人の参加がありました。

講師は石田三千人さん(下樓)で、わらの扱い方から教わり、徐々にしめ縄の形になっていきました。神棚に飾るしめ縄、車に飾るしめ縄など、参加者はいろいろな大きさを作りました。

参加者からは「子供のころは親に言われながら、しめ縄の作り方を教わったもんだ。今となってはいい思い出」「こんなに楽しいとは思わなかった。また、来年も参加したい」と言った声が多く聞かれました。最後は、自分で作ったしめ縄を手に記念撮影をしました。

# 町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1  
電話：74-0212 FAX：74-0105  
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

## 地域で認知症を理解し、ささえあうことが大切

### ▼第8回おしどり学園開催「認知症について」



講師の吉野立さん

れます。なかでも、アルツハイマー病が50%で最も多い状況となっており、認知症の原因をきちんと知ることが大切です。

認知症の大半は、発症年齢が65歳以上の老年性認知症と、発症年齢が65歳未満の若年性認知症があげられます。若年性認知症は、37歳位から発症する場合もあり、最も若くて20歳位の人が発症した例も確認されているそうです。

なお、加齢による物忘れの場合、記憶障害は部分的で、ヒントがあれば思い出すことができ、認知症による物忘れは、出来事自体を忘れてしまうという違いがあります。

最後に吉野さんは、認知症の人を支えていくポイントについて「認知症は、周囲が気づき、地域で認知症を理解し、支えあうことがとても大切なこと」と、学園生に訴えました。

12月21日、平成24年度第8回おしどり学園を開きました。今回の一般教養講座は「認知症について」と題して、認知症と家族の会の吉野立さんが、認知症の症状などについて話されました。

町の高齢化率は約40%で、県内では、日南町に次いで二番目。町の介護認定者数は約260人です。また、世界では、4秒に1人の割合で認知症を発症しており、高齢化が加速しつつある状況です。

「認知症の発症は65歳以上で10人に1人、85歳以上では、4人に1人となっており、発症患者は急速に増えつつある」と吉野さんは話し、認知症という病気については「いったん発達した大人の脳に何らかのさまざまな原因で傷害が生じ、本来の働きができなくなる病気」と説明されました。

認知症を引き起こす代表的な病気としては、「アルツハイマー病」、「ルビー小体型認知症」、「脳血管性認知症」の三つが挙げら

## 薬物乱用の危険から、子どもたちを守りましょう

▼「青少年を脱法ハーブ等薬物乱用の危険から、県民みんなで守る！」啓発運動、夜間街頭指導パトロールの実施

12月12日、町青少年育成会では、「青少年を脱法ハーブ等薬物乱用の危険から、県民みんなで守る！」啓発運動を実施しました。

脱法ハーブなどの薬物乱用が社会問題化している中で、県では、青少年健全育成条例が一部改正されました。これに合わせて、JR根雨駅前登校する高校生に、脱法ハーブなど薬物乱用しないように呼びかけをしました。

また、12月26日には、夜間街頭指導パトロールを行いました。小学校、中学校、高校の冬季休業期間に合わせて実施し、地域防犯の啓発活動を行いました。参加者のみなさん、ありがとうございました。



根雨駅前では高校生に呼びかける